

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

2022年 1月 19日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 化学研究所・化学生命科学領域

職 名 教授

氏 名 緒方 博之

助成の種類	<b>令和3年度 ・ 国際会議開催助成</b>			
国際会議名	第10回国際水圏ウイルスワークショップ			
開催期間	2021年6月27日 ～ 2021年7月1日			
開催場所	オンライン開催（開催本部：京都大学宇治キャンパス）			
参加者	総数 200名	内 訳： 日本 56名、米国54名、イスラエル15名、カナダ13名 ドイツ10名、ノルウェー9名、フランス9名、その他34名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
会計報告	事業に要した経費総額	1,918,521 円		
	うち当財団からの助成額	804,144 円		
	その他の資金の出所	化学研究所国際共同利用・共同研究拠点、サイモンズ財団		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	AVW10 HP作成費	236,159		
	ミーティングポータル作成費	396,000		
	Zoomオンライン開催サポート	482,218		
	要旨集及びオペレーションスタッフ諸経費等	286,649	286,649	
	事前参加登録システム関連費用	477,895	477,895	
WEBサーバー利用料	39,600	39,600		
合 計	1,918,521	804,144		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 会議開催に関しては、コロナ禍の中ということもあり、少なからず試練が伴いました。しかし、貴財団に極めて良い時期に助成のご判断いただき、運営資金上の問題を克服できました。会議は別添の「成果の概要」に記載させて頂いている通り、結果的には大変すばらしいものとすることができました。貴財団からの本事業への助成に改めて御礼を申し上げます。			

## 成 果 の 概 要

### 10<sup>th</sup> Aquatic Virus Workshop (AVW10)

主 催：日本微生物生態学会

共 催：京都大学化学研究所 国際共同利用・共同研究拠点

協 賛：京都大学教育研究振興財団

ゴードン・アンド・ベティ・ムーア財団

サイモンズ財団

日 時：2021年6月27日（日）～7月1日（木）

場 所：オンライン開催（実施本部、京都大学化学研究所）

2021年6月27日（日）～7月1日（木）の4日間にわたり、10th Aquatic Virus Workshop (AVW10, ホームページ <https://www.avw10.jp/>)をオンライン開催した。AVWは水圏ウイルスに関する最新の研究成果を議論する場として、ノルウェーで第1回（1998年）が開催されて以来、2～3年毎に継続的に世界各国で開催されてきた。記念すべき第10回にあたるAVW10は、日本微生物生態学会主催、京都大学化学研究所国際共同利用・共同研究拠点共催のもと、京都大学化学研究所 緒方博之教授 を実行委員長として、京都大学、高知大学、海洋研究開発機構、筑波大学、東京工業大学、水産研究・教育機構所属の実行委員と海外の国際委員（表1）の協力を得て開催された。また、ゴードン・アンド・ベティ・ムーア財団、サイモンズ財団、京都大学教育研究振興財団からの支援を受けた。

AVW10では、招待講演（Featured Talk）13題、一般公演（Live Talk）37題、オンデマンドプレゼンテーション 46題の研究発表があった（要旨集を添付する）。演題は「Virus-host interaction」、「Isolation, genome, structure」、「Infection cycle, molecular basis」、「Ecogenomics」、「Microbial food web & biogeochemical cycle」、「Modelling」、「Evolution」の7つのテーマにわたり、幅広い水圏ウイルス研究分野をカバーした。また、21カ国から総勢200名の参加者を得た（表2）。従来に対面開催では100名程度以下の参加人数であったところ、オンライン開催により広く参加者を募ることができ、参加者からも好評であった。

今回のオンライン開催では下記の三点を含む工夫を行った。第一に、時差対応である。世界の各国からのライブ参加を促進するために、午前（9時～12時）、午後（3時～6時）、夜間（10時～11時）の3つのセッションを設けた。これにより、海外参加者のライブ参加が促進された。第二に、全てのセッションを録画配信し、時差により参加できなかったセッションの発表を後日視聴できる仕組みを設け、参加者の利便性を図った。第三に、従来のポスターセッションに代わり「オンデマンドプレゼンテーション」を設けた。録画済のプレゼンテーションを会議前から視聴できるようにし、当日の発表の場では、繰り返しの説明を行わずに、質疑応答に専念できる形式である。その他、参加ルールの説明等の文書配布を丁寧に

行った。参加者からは「今までに見たことのない最高のオンライン会議であった」など、好評をいただいた。

今回の AVW10 では、世界各地で得られた水圏ウイルスを巡る最新の研究成果を踏まえた議論ができた。そして、環境中でのウイルスの挙動や微生物との関係性を理解することが、生態系を根底から理解する上で必要不可欠であるとの認識が高まった。また、総会にて次回 AVW11 はカナダ主催で実施することに決定された。

最後に、本ワークショップを開催するにあたりご支援をいただいた京都大学教育研究振興財団に厚く御礼を申し上げたい。

文責：緒方博之

表1 AVW10 実行委員会構成員

国内

京都大学・化学研究所	緒方 博之
京都大学・化学研究所	遠藤 寿
京都大学・化学研究所	岡崎 友輔
産業技術総合研究所	鎌形 洋一
北海道大学	岡部 聡
京都大学・農学研究科	吉田 天士
高知大学	長崎 慶三
高知大学	高橋 廸子
海洋研究開発機構	布浦 拓郎
東京工業大学	望月 智弘
筑波大学	浦山 俊一
国立研究開発法人水産研究・教育機構	外丸 裕司

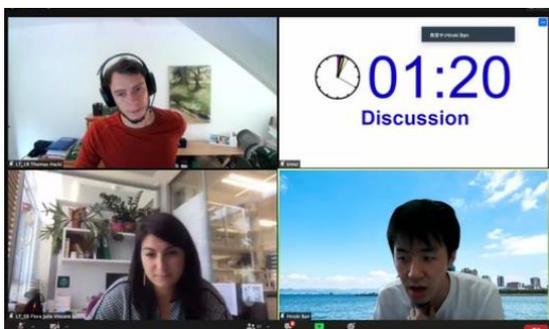
海外

University of Bergen, Norway	Gunnar Bratbak
Royal Netherlands Institute for Sea Research/University of Amsterdam, The Netherlands	Corina Brussaard
University of Nebraska-Lincoln, US	David Dunigan
Max Planck Institute, Germany	Matthias Fischer
Technion-Israel Institute of Technology, Israel	Debbie Lindell
University of Toronto, Canada	Steven Short
University of British Columbia, Canada	Curtis Suttle
Georgia Institute of Technology, US	Joshua S. Weitz

表2 AVW10 参加国

国	参加者数
日本	56
米国	54
イスラエル	15
カナダ	13
ドイツ	10
ノルウェー	9
フランス	9
オランダ	6
中国	6
メキシコ	5
スウェーデン	4
英国	2
スペイン	2
ブラジル	2
シンガポール	1
パナマ	1
インド	1
フィンランド	1
エジプト	1
デンマーク	1
オーストラリア	1

付録 オンライン会議風景



Farwell, thank you AVW10 Team!

